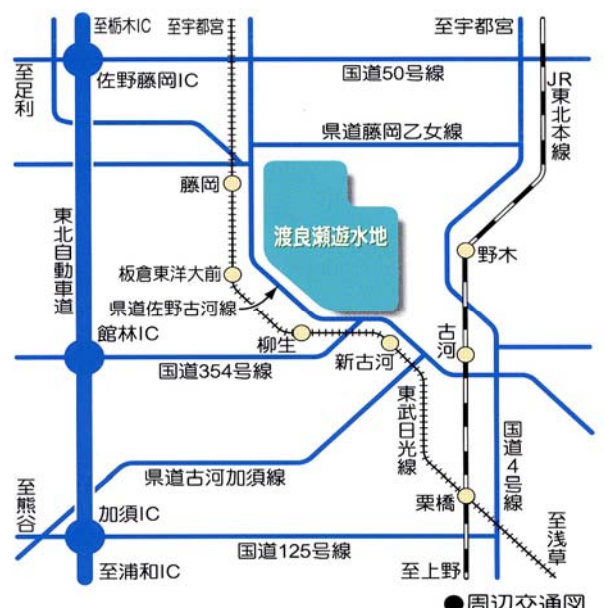


観光社会資本の事例

テーマ	レクリエーションスポットとして注目を集める渡良瀬遊水地
【施設の状況写真】	
	
<p>渡良瀬遊水地は、栃木県、茨城県、群馬県、埼玉県の4県にまたがり、人工的に築造された広さ 3,300ha の水と緑の大自然に恵まれた日本最大の遊水地である。</p>	<p>貴重な湿地環境を保全するため、毎年3月にヨシ焼きを実施しており、渡良瀬遊水地周辺は多くの見物客で賑わう。</p>
【施設の利用写真】	
	
<p>休日には憩いの場を求め、多くの来場者が楽しんでいる。</p>	<p>国体では人造湖で全国初のセーリング大会も開催され、多くの観光客で賑わった。</p>
【観光資源としての利用状況】	
<p>渡良瀬遊水地は、「利根川の治水の要」であり、利根川上流ダム群と共に洪水調節の大きな役割を担っており、近隣の2市4町(栃木県藤岡町・小山市・野木町、茨城県古河市、群馬県板倉町、埼玉県北川辺町)にも多大な効果を与えている。</p>	
<p>渡良瀬遊水地は都心から約 60 km(東京より電車で約 1 時間)という好条件にあり、利用者は年間約 90 万人に達し、首都圏唯一の豊かな動植物の楽園の様相を呈しているほか、スポーツ、レクリエーション等を通じ地域の活性化のための貴重な財産となっており、近隣2市4町と地域の発展と利用機能の向上につながるように協働している。</p>	

テーマ	レクリエーションスポットとして注目を集める渡良瀬遊水地
【社会資本の基礎データ】 名称 渡良瀬遊水地 所在地 栃木県, 茨城県, 群馬県, 埼玉県 事業名 遊水地化事業, 調節池化事業, 貯水池化事業 事業主体 国土交通省 関東地方整備局 利根川上流河川事務所 事業期間 遊水地化事業(明治44年～大正11年), 調節池化事業(昭和38年～平成9年概成), 貯水池化事業(昭和51年～平成2年)	
【社会資本の役割・効果】 ○ 治水効果 渡良瀬遊水地周辺では、明治35年、昭和22年等大きな洪水被害を発生してきたが、渡良瀬遊水地の遊水池化事業及び調節池化事業の概成により効果は現れ、平成14年7月出水では利根川本川の水位を約1.0mも下げることが出来た。しかし、計画上必要となる治水容量が不足しているため、自然環境を保全し調和を図りながら整備を進めていく。 ○ 利水効果 産業経済の著しい進展と都市人口の急激な増加により、水需要は著しく増加して、首都圏では取水制限を伴う渇水が2～3年に1回の割合で発生している。渡良瀬貯水池(谷中湖)は需要地に近い利点を生かし、渇水時に首都圏の生活用水を供給している。また、谷中湖はハート型の貯水池で地域住民のシンボルとなっている。	
【位置図】  <p>車をご利用の場合 国道354号線三国橋より北西約3km 東北自動車道：館林I.C.より東へ約20分</p> <p>東武鉄道ご利用の場合 東武日光線「新古河駅、柳生駅、板倉東洋大前駅、藤岡駅」下車 (浅草駅～板倉東洋大前駅：約1時間 快速利用) (宇都宮駅～板倉東洋大前駅：約1時間 快速利用)</p> <p>JRご利用の場合 JR宇都宮線「古河駅、野木駅」下車 (上野駅～古河駅：約1時間) (宇都宮駅～古河駅：約40分)</p>	
【関連ホームページ】 利根川上流河川事務所ホームページ http://www.tonejo.go.jp/ 渡良瀬遊水地ホームページ http://www1.odn.ne.jp/aan53170/wtrs/index.html	